

平成 30 年 7 月豪雨災害における
「(公財) みんなでつくる財団おかやま」の災害対応

平成 30 年 8 月 9 日時点報告

1. 災害支援における当法人の役割と位置づけ

ローカルなコミュニティ財団として、平時から行政、NPO、大学、企業等と関係性を持っている。特に行政や県内の助成団体とは合同説明会を実施するなど連携が深い。また、寄付者と NPO、助成団体と NPO などのつなぎ役としての機能を果たしている。

災害支援においてもその機能を発揮するとともに、様々なセクターとの関係性を活かし、被災地、者のニーズ把握を行うとともに必要な資源をつなぐことを主に活動する。

(主な活動)

- ・様々なセクター、地域住民と連携した情報収集（ニーズ把握）
- ・災害支援ニーズと地域の必要なサービス（団体）をつなぐ
- ・災害支援ニーズに対応するための助成事業の実施

また、ローカルのコミュニティ財団として、緊急期だけでなく復興期も含めた中長期（少なくとも 3 年）は地域の活動の再構築、価値創造を資源仲介を通じて支援していく。

2. 災害発生から当法人の意思決定の流れ

- | | |
|----------|---|
| 7 月 7 日 | 代表理事から災害対応のための基金設置の発議あり |
| 7 月 8 日 | 全理事、監事の合意により基金設置が決定
法人内の基金の種類：社会変革基金
基金名「ももたろう基金」
基金の詳細は【資料 1】参照 |
| 7 月 8 日 | 災害対応の意思決定手段として、理事・監事のメッセージグループを設置。災害対応にかかることについての意思決定方法は、発議後 24 時間以内に意思表示を行い、全理事の合議により可決する旨が決定。 |
| 7 月 10 日 | ニーズにあわせてテーマ設定をし、随時助成実施することが決定「第 1 次助成募集スタート」 |
| 7 月 17 日 | 第 2 次助成募集スタート |
| 7 月 31 日 | ももたろう基金募集の延長【第 2 期】ももたろう基金設置の確認及び、第 3 次・第 4 次助成募集の決定 |

3. 災害発生から当法人の取り組み

※簡易報告、今後数値等の情報を更新していく。

1) 被災地ニーズの把握に関すること

- ・特に災害の激しい真備エリアで現地調査を実施。
7月10日～30日は、毎日実施
7月31日以降は、必要に応じて実施。(2日に一度程度)
8月に入り、避難所の状況も場所ごとで課題が多様化しており、8月7～9日には倉敷市災害対策本部物資管理チームとともにヒアリング調査を実施
- ・県内外の支援機関で組織する災害支援ネットワークに参加し、情報発信および情報収集を行っている。(現在は週に1度の開催)
- ・行政や災害支援に活動するNPOに個別ヒアリングを実施し、被災支援のニーズ及び活動団体のニーズを調査
- ・特に被災の激しい真備エリアのNPOに個別訪問し、状況調査および復興に必要な支援を一緒に検討している。

2) 災害支援ニーズと地域の必要な団体をつなぐ

- ・避難所へ必要な物資を届けるための情報仲介(団体紹介)の実施
- ・寄付者に活動団体の紹介(寄付のマッチング)
- ・現地ボランティアへの機材の提供する会社とボランティアのマッチングや物資提供者と活動団体など支援ニーズにあわせて活動を実施できる団体のマッチング

3) 災害支援ニーズに対応するための助成事業の実施

- ・ニーズ調査にあわせて、助成テーマを設定し、第1次、第2次の助成を実施。(現在、第3次、第4時を実施中)
- ・助成は、ニーズ把握を行い、それに合わせてテーマ設定し、実施している。【資料2】参照
- ・助成の案件組成を3段階のレベルで実施
LV1.既にニーズを把握して対象者をつながっている団体への助成
LV2.重要なニーズに対して団体をつなげることで助成
LV3.緊急を要し、特に重要なニーズに対して関係機関を調整し、積極的に私たちがプロジェクト組成に関与し助成
- ・LV3 助成の取り組みとしては、真備エリアに医療を継続提供するための仕組みの構築。現在は、倉敷市災害対策本部物資管理チームと連携し、避難所毎のニーズにあわせた緊急物資の調達スキームを構築中。

- 4) 災害支援に必要な資金を継続的に調達するための他団体との連携の実施
- ・ 緊急期のあとの復興期を支えるプロジェクト～もみじ・もも・むすびプロジェクト～として、公益財団法人地域創造基金さなぶり（宮城県仙台市）、公益財団法人コミュニティ未来創造基金ひろしまと連携し、「平成30年7月豪雨」復興支援にかかる資金調達等を開始。
＜公益財団法人地域創造基金さなぶり WEB ページ＞
<http://www.sanaburifund.org/shiensupport/2018/07/17349/>
 - ・ 公益財団法人公益法人協会（東京都文京区）と連携し、西日本豪雨災害草の根支援組織応援基金による復興支援にかかる資金調達を開始。
＜公益財団法人公益法人協会 WEB ページ＞
<http://www.kohokyo.or.jp/shinsai/shinsai.html>

4. ももたろう基金寄付の状況報告

平成30年8月9日17時時点（※第1期、第2期合計）

のべ寄付者数 491人
寄付金額 38,046,293円

※平成31年3月31日まで【第2期】ももたろう基金寄付受付中
2～3年復興を支えられるように財源を確保していく。

5. 既に実施をした助成プログラム

- 1) ももたろう基金第1次助成団体 2団体
 - ・ ニーズがあり、既に支援者とつながっている事業に助成
※助成団体は、別添【資料3】のとおり
- 2) ももたろう基金第2次助成団体 15団体
 - ・ 多くの団体が既に取り組みをはじめており、投資することで事業が加速するものに積極的に助成を実施。また、緊急度の高いニーズに対しては、当法人が積極的に案件組成をおこなった。
※助成団体は、別添【資料4】のとおり
※LV.3助成 緊急支援の医療拠点などが撤収予定となり、継続して医療提供のために吉備医師会が仮設診療所を真備エリアに設置【資料5】

6. 現在実施中の助成事業

真備のように緊急期を脱していないエリアから既に復興の準備をはじめているエリアもありニーズが多様化している。

また、みなし仮設の導入などにより、居住地を従来の拠点から離れる人も多く災害復興にむけて、コミュニティの再生や子どものケアなど継続支援が必要であり、第1次と第2次と同様の緊急助成【第3次助成】と中長期の復興をささえる【第4次助成】と同時に募集を行っている。

1) もたろう基金第3次【緊急】助成

随時審査、緊急に必要な事業に助成を実施

詳細はこちら

<http://blog.canpan.info/mintukuokayama/archive/350>

2) ももたろう基金第4次【災害支援・復興】助成

8月27日まで募集を受け付け、9月頭に審査。

継続して実施が必要な事業を運営費も含めて助成実施

詳細はこちら

<http://blog.canpan.info/mintukuokayama/archive/351>

ももたろう基金【第1期】の概要（寄付募集平成30年7月31日まで）

基金の名称	ももたろう基金 「岡山県内における平成30年台風第7号及び前線に伴う大雨による災害に対する支援寄付基金」
基金の種類	社会変革基金（平成30年7月8日理事会合議により設置）
基金の目的	平成30年7月豪雨で発生した災害に対して、県内団体等の支援活動や活動復旧に対する助成を行う原資として活用
寄付募集期間	平成30年7月8日～7月31日 ※8月以降も内容を再検討し、募集予定
寄付募集の方法	HP等の公開による。 寄付受付方法（クレジットカード、現金、郵便振替）
運営費	寄付額から運営費への割当は、クレジット決済にかかる手数料のみとし、事務経費は当法人が負担する。 ※大口寄付者のうち、個別に意思確認を行い、合意のあった寄付者の寄付金額の10%を上限に運営費として活用できる。
助成の方法	公募による随時助成 ※審査基準は募集要項ごとに設定 平成30年7月豪雨災害にかかる被災地支援、復興活動に助成。助成決定時に指定正味財産から一般正味財産に振替

ももたろう基金【第2期】の概要（寄付募集平成30年8月1日から）

基金の名称	ももたろう基金 「岡山県内における平成30年7月豪雨災害に対する支援寄付基金」
基金の種類	社会変革基金（ももたろう基金【第1期】の継続） ※平成30年8月1日基金募集内容の変更（目的変更なし）
基金の目的	平成30年7月豪雨で発生した災害に対して、県内団体等の支援活動や活動復旧に対する助成を行う原資として活用
寄付募集期間	平成30年8月1日～平成31年3月31日 ※期間延長の可能性あり
寄付募集の方法	HP等の公開による。 寄付受付方法（クレジットカード、現金、郵便振替、銀行振込）
運営費	寄付総額の10%（平成30年8月1日以降申込分） 寄付総額のうち10%をももたろう基金【第1期】、【第2期】の運営経費にあてる。《クレジット決済にかかる手数料、報告書等印刷費用、事務局交通費、人件費、その他ももたろう基金運営に関すること（不足分についてはみんつく応援基金をあてる）》
助成の方法	公募による助成 ※審査基準は募集要項ごとに設定 平成30年7月豪雨災害にかかる被災地支援、復興活動に助成。助成決定時に指定正味財産から一般正味財産に振替 《3年以内を目途にの助成実施を行う》

「ももたろう基金」助成の流れ

1. ニーズ把握



みんなで作る財団おかやまが

- 災害支援ネットワーク会議
- 活動中のNPO
- 当事者
- 現地調査
- 行政

などの情報源をもとに被災地のニーズを把握しています。

2. テーマ設定



「1」で把握したニーズから、被災地で必要だと考えられるテーマを選定しています。

<テーマ例>

被災者の孤立防止

コミュニティ形成

子どもの居場所

など

3. 助成



助成について、下記のような区分を設けています。

《LV.1》

既にニーズを把握して対象者をつながっている団体への助成

《LV.2》

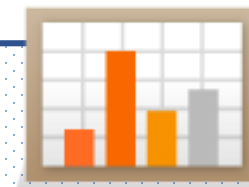
重要なニーズに対して団体をつなげることで助成

《LV.3》

緊急を要し、特に重要なニーズに対して関係機関を調整し、積極的に私たちがプロジェクト組成し助成

※助成を保留にして、ニーズが発生した段階で助成を行うケースや助成は行わず、ニーズと団体をつなぐだけのケースもあります。

4. 報告・評価



実施した事業の報告と評価を行います。

ももたろう基金 助成団体一覧 2018年8月4日現在

審査の講評(経緯や視点)や助成以外の取り組みについても随時まとめて報告いたします。
助成結果のみ速報で報告いたします。

番号	助成団体	申請決定額			活動内容	団体HP(またはFB)
		被災地支援活動	自団体の活動復旧	その他		
第1次助成 2事業助成決定(支援対象者に確実に提供できる支援を選択、ニーズとマッチング中での保留の事業あり)						
1	キッズウェルカムプロジェクト	150,000			被災地域の子ども達を瀬戸内市内に招いておこなう自然体験や心のケアのリフレッシュツアー。	https://www.facebook.com/kidswelcomePJ/
2	倉敷市学童保育連絡協議会	500,000			被災した真備地区6小学校区の学童期の子どもたちを対象に行う学童保育事業。日中の子どもたちの居場所づくりを行う。	https://www.facebook.com/kurashikishikakudouhoikurenrakukvougikai/

第2次ももたろう基金 助成団体一覧 2018年8月6日現在

審査の講評(経緯や視点)や助成以外の取り組みについても随時まとめて報告いたします。
助成結果のみ速報で報告いたします。

第2次助成 15事業助成決定(地域によって状況の違うニーズに合わせて、投資することで事業が発展するものを積極的に支援)

番号	助成団体	申請決定額			活動内容	団体HP(またはFB)
		被災地支援活動	自団体の活動復旧	その他		
3	NPO法人倭文の郷	160,000			一時避難所となっている倉敷市真備町岡田小学校の避難者に対して食事の炊き出し支援を行う事業	https://www.sitorinosato.jp/
4	(一社)吉備医師会		1,000,000		被災した家屋や避難所で暮らす人、真備の現地ボランティアに入っている人に医療を提供するために基幹病院であるまび記念病院にて仮設診療所を設置し、医療を継続して提供できる状態を作る	http://www.okayama.med.or.jp/kibi/
5	CAPおかやま	400,000			倉敷市立菌(その)小学校避難所での見守りや暴力防止のための活動を実施	https://www.cap-okayama.net/
6	認定NPO法人ハート・オブ・ゴールド	500,000			立ち入り禁止区域の倒壊寸前の家屋から個人・団体・企業からの要望を受けて財産保全活動を行う。メンバーは警察・消防・海上保安官の現職・OBで構成されており、ボラセンを通して個人から、また企業や消防などから依頼されて活動を行なっている	http://www.hofg.org/
7	自学道場(安永教育学院)	250,000			避難所の小学校と連携して在宅に避難している子どもの居場所づくりとして学習支援を実施	http://www.jigaku-dojo.com/
8	ぞうきんプロジェクト実行委員会	300,000			岡山県内の被災地域の個人・団体・災害ボランティアセンター等へ雑巾・タオル・清掃用具を全国から集め、提供する活動	https://www.facebook.com/search/str/%E3%81%9E%E3%81%86%E3%81%8D%E3%82%93%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88%E5%AE%9F%E8%A1%8C%E5%A7%94%E5%93%A1%E4%BC%9A+/keywords_search
9	晴れの国おかやま絵本読み聞かせ隊	150,000			絵本作家サトシンさんによる絵本読み聞かせライブを岡山市東区・倉敷市真備町・矢掛町で実施。8月30日菌幼稚園、二万幼稚園、岡田小学校(倉敷市真備町) 9月2日総社市・矢掛町 9月3日平島小学校(岡山市)	https://kokucheese.com/event/index/522884/

番号	助成団体	申請決定額			活動内容	団体HP(またはFB)
		被災地支援活動	自団体の活動復旧	その他		
10	岡大教育学生ボランティア	150,000			倉敷市周辺の子どもの避難者が少なく、学習支援が届きにくい避難所へ1~2名の学生が訪問し、週3回子どもの学習見守り支援活動を行なっている。「出張おかだい(岡大)教室」も実施予定。	http://soran.cc.okayama-u.ac.jp/view?u=df148c497daca9274506e4da22f6611
11	ぞうきんプロジェクト@笠岡	500,000			笠岡市で床上浸水住宅の復旧活動を行う民間ボランティアセンター。市役所や行政との協力関係もできている。3~10名1チームとして活動。1日100名程度派遣。必要物品(軽トラックや道具)などの他、住民への炊き出しも実施。	https://www.facebook.com/%E3%81%9E%E3%81%86%E3%81%8D%E3%82%93%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88%E7%AC%A0%E5%B2%A1-205289860137567/?ref=br_rs
12	(一社)ぐるーん	150,000			総社市および倉敷市の避難所での、特に小さい子どもを抱えた母親に対してアロマトリートメントを実施。週1~3回実施。2名1組で周り、1名は託児担当。	https://www.gruun.org/
13	(一社)SGSG	150,000			倉敷市真備町筋田地区を中心に、小学生~大学生がローカル情報や明るいニュースなどを掲載した新聞を発行し、配布する。8月8日に第1刊発行。8月中毎週発行予定。	http://www.nomutai.net/
14	NPO法人岡山県腎臓病協議会	200,000			まび記念病院で治療していた透析患者約100名は県内21箇所施設の施設で治療中である。慣れない場所での治療は精神的にも負担が大きいため病院単位ごとに患者の「話のできる場所」づくりとびピア相談会を実施する。	https://www.okajin.jp/
15	岡山県学童保育連絡協議会	500,000			倉敷市真備町を中心に学童保育施設のゴミの撤去作業をおこなっている。学童保育の施設は今後解体、再建築かどうか倉敷市と調整しながら必要な施設整備を行っている。	http://岡山学童保育.com/
16	NPO法人オカヤマビューティーサミット	250,000			倉敷市岡田小学校・二万小学校、岡山市東区小鳥の森集会所で13:30~18:00ごろ、マッサージ、エステ、鍼灸などを行い、被災者に癒しを提供している。	http://okayamabs.org/
17	(一社)ぐるーん	141,000			高梁市での学童保育支援事業を実施。8月24日には玉川小学校、落合児童館と合同で縁日を実施。	https://www.gruun.org/

ももたろう基金 事業実施状況 (2018.7.30時点)

真備に医療拠点を復活させるために、被災医療機関のための仮設診療所を設置する

実施事業： まび記念病院診療所復活プロジェクト

実施者名： 一般社団法人 吉備医師会

助成金額： 1,000,000 円

実施した事業の内容 (事業実施中)

(当初状況) 真備はほとんどの医療機関(11医療機関のうち10医療機関が診療不能)が被災し、壊滅状態にある。また、現在避難所や救護所、まび記念病院に設置した移動診療車で臨時的診療を行っているが、そのほとんどが7月23～29日に撤収の予定である。(まび記念病院に設置の診療車も7月29日までしか借りられていない)

医療提供が滞ることで真備からの人口流出の原因にもなり、地域コミュニティの崩壊に繋がるため、医療体制の維持は喫緊の課題である。

(概要) 被災した家屋や避難所で暮らす人、真備の現地

ボランティアに入っている人に医療を提供する為に、真備の基幹病院であるまび記念病院にて仮設診療所を設置し、医療を継続して提供できる状態をつくる。

7月29日建設完了。30日から診療開始。

(今後のこと)

8月末までのリース料までをももたろう基金で負担、今後はまび記念病院と吉備医師会の協力関係のもとに、診療体制を維持していく。(すでに、この仮設の設置をモデルにほかの場所でも診療所を設置できるように吉備医師会で財源確保も含めて調整中。)



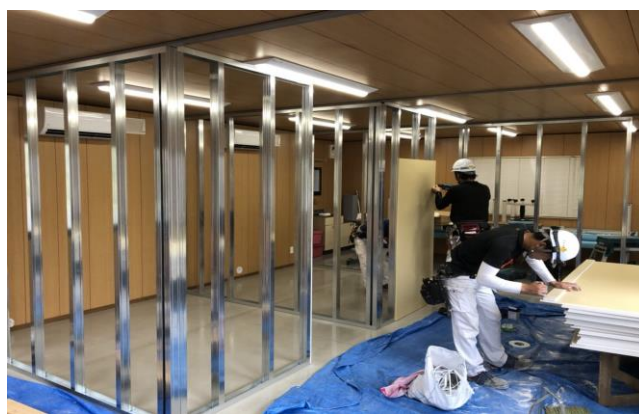
仮設診療所全景



診療室内



診療室全景



設置状況

この事業では、みんつく財団は資金提供だけでなく設置に必要な諸条件をクリアするために、行政機関と建設会社の協議の場の設置や、運営体制確保のために吉備医師会や災害支援組織など関係者の会議開催支援を行っている。